

～在宅看護専門看護師の役割と活動～

私が在宅看護を学ぼうと思ったきっかけは、NICU・小児病棟で働く中で、医療的ケア児の入退院支援に感じたジレンマからでした。医療的ケア児とは、日常生活を送る上で医療的なケアと医療機器を必要とする子どものことです。在宅療養支援の体制が徐々に整備されてきているとはいえ、まだまだ制限されることも多い社会です。たった一本の経鼻胃管があることで「保育園に入れない」、「学校には親の付き添いが必要」、「母親は仕事を継続できない」など、障がいを持つ子どもと家族が暮らしにくい現状があります。子どもたちが急性期治療を終え、自宅に帰り、身近な家族や友人、社会生活の中で多くの可能性をもちながら成長する。病気や障がいを持ったことで、なぜ制限がかかってしまうのか、現場の看護師の私達ができることはないのか、実際に国や自治体の動きや支援体制はどうなっているのかなどを学びたいと思い、2020年に在宅看護専門看護師を取得しました。

現在、入退院支援室に所属し、小児病棟の患児・家族のみだけではなく、成人病棟の患者・家族に対しても在宅での生活を見据えて、患者・家族の最善に向けて多職種と一緒に考えるプロセスを大切にした実践に取り組んでいます。自宅で児の医療的ケアや医療機器の管理を一身に担う母親が、「家でみるのはもう限界」、「気管切開したら、もう終わりだわ」、「ダウンじゃないって言われたから産んだのに私自身の人生はどうなるの」と、泣きながら気持ちを話してくれます。そんな時、母親の言動のありのままを受け止めることからはじめ、家族の揺れに根気強く寄り添いながら、院内外が多職種で在宅での療養生活を継続的に支えています。また、小児だけではなく成人病棟においても、本人や家族の大切にしてきた思いや価値を丁寧に聴き、本人・家族が自己決定できるよう支援しています。そして、本人と家族の意向が異なる場合においても、それぞれの思いを聴き、その人、その家族らしい生活ができるよう調整に尽力しています。

在宅看護専門看護師として、全ての看護師が看護経験の有無に関係なく、入退院支援に必要なプロセスを理解し、実践できることが重要であると考えています。教育活動として、入退院支援リンクナース連絡会での講義や企画運営、看護部教育委員会での入退院支援に関する講義、医学部の学生へのチーム医療の講義などを担っています。また、専門看護師の看護学実習や院内・外の看護学生の実習や演習にも携わっています。高度急性期病院の看護師は、安全な看護の担保とあわせて、生活の視点を見据えた看護の力をつけることが必要です。昨今の多忙な現場では大変難しい目標を掲げているかもしれませんが、しかし、在宅看護の視点である「病気や障がい、加齢にともなう生活のしづらさがあつたとしても日常生活を可能にするための支援」という考え方は看護の醍醐味でもあると信じています。

これからも、本人・家族が望む生活の場で、その人・その家族なりの幸せな生活が継続できるよう病院と地域それぞれができることを一緒に考えながら、皆で支えていきたいと思っています。